

授業科目名	動物園総論Ⅰ	科目コード	263009		
開講クラス	動物健康管理学科	コース	動物園・水族館・ドッグ インストラクターコース	学 年	1 年
担当教員	出口智久				
	実務経験教員 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) 実務経験内容 宮崎市フェニックス自然動物園元園長				
開講時期	前期・後期・ <input checked="" type="checkbox"/> 通年・特別講義・その他		授業コマ数	60 時間	
	<input checked="" type="checkbox"/> 必須 ・ 選 択 ・ 選択必須		単 位 数	2 単位	
使 用 テキスト1	書 名				
	著 者				
	出版社				
使 用 テキスト2	書 名				
	著 者				
	出版社				
参考図書					
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習				
<p><授業の目的・目標> 博物学や動物学を基盤とした近代動物園を経て希少種保存を主目的とした現代動物園に至るまで、単なる動物展示施設やレジャーランドとしての存在意義は失われつつあり、新たな動植物園等の認定制度が検討されている。これまでの動物園が歩んできた道筋やこれからの動物園が目指すべき「環境教育施設」、「種保存施設」および「野生動物研究施設」としての役割やポリシーについて認識し、動物福祉に配慮した動物飼育の実践を修得する。後期は野生動物の生態学を中心に、進化の過程や生存戦略を学び、飼育を担当する上で必要な動物の特性について留意しながら、飼育を実践できるようにする。</p>					
<p><授業の概要・授業方針> 講述およびスライド・ビデオ映像等を用いた説明を心がけ、単なる知識の修養ではなく、現場に立った時に動物のどこに注目しどんな対応を取らなければならないのか、自ら考え、行動できるように準備をさせる。毎時プリントを配布。</p>					
<p><成績基準・評価基準> 前期と後期に優・良・可・不可の成績基準を設定する。評価の基準は筆記試験によるものとし、本科目の出席率が80%以上なければ本試験が受験できない。本試験における点数が80～100点を優、70～79点を良、60～69点を可とし、60点未満は追試とする。また、出席率が80%未満の場合も追試となり、追試においては60～100点を可とする。追試にて60点未満の場合は不可となる。</p>					
<p><使用問題集・注意事項></p>					
<p><関連科目他> 動物園総論Ⅱ</p>					

授業科目名		動物園総論 I	
2H/回	授 業 内 容		備 考
1	動物園総論について（自己紹介：現在の認識テスト）		
2	動物園の定義（法規の定義他）		
3	動物園の歴史（動物園はどうして生まれたか）、脊椎動物		
4	日本動物園の歴史と分類		
5	日本動物園水族館協会、動物園の社会的役割（4つの目的）		
6	動物園の教育（催事：毎日）		
7	同上（催事の目的と実践と考え方）		
8	同上（標本を使った実験）		
9	同上（サマースクールと移動動物園教室の昔と今）		
10	動物園の展示論（展示の要素、配列を考慮した分類と目的を考慮した分類）		
11	同上（日本の動物園、世界の動物園）		
12	同上（動物福祉と展示：ランドスケープイマージョンとアブストラクトエコロジー）		
13	動物飼育総論（産業動物と野生動物）		
14	同上（動物園の動物福祉の概論）		
15	前期まとめ		
16	動物飼育各論（動物の栄養学）		
17	同上（消化：草食動物、鳥類他）		
18	同上（動物園の繁殖について：環境整備、栄養他、哺乳類と人工保育と鳥類の育雛の考え方）		
19	同上（繁殖の実例①：キリン、ラクダ、シカ猛獣等哺乳類の繁殖の取り組みと実例）		
20	同上（繁殖の実例②：ダチョウ、インドトキコウ、フラミンゴ他鳥類の繁殖の取り組みと実例）		
21	同上（繁殖実例③：チンパンジーの繁殖の取り組みと実例）		
22	動物飼育の心構え（飼育員の心構え）		
23	動物の移動（必要性、手法、法規他）		
24	同上（キリン、ゾウ、ラクダの移動方法）		
25	動物園の調査研究（個体管理、記録）		
26	同上（調査研究の実例と課題）		
27	動物園の保全（保全について考える）		
28	同上（域外保全：チンパンジー、アジアゾウ他）		
29	同上（域内保全：アカウミガメ、ニホンカモシカ、出水のツル）		
30	後期まとめ		